

「白内障の治療」

白内障って聞いたことがありますか？眼の中の水晶体というレンズが濁る病気です。全体的に霞んで見えづらい、明るいところがまぶしい、夜の運転時ヘッドライトがまぶしい、などの症状があります。基本的に加齢とともに起こりますが、ステロイドなどの薬やぶどう膜炎などの病気やぶつけるなどの外傷が原因のこともあります。50歳ぐらいから少しずつ濁りが進行していき、少なからず症状が出てくると言われています。徐々に進行してくるため自分では気づきにくいことがあり、健康診断で視力低下を指摘されたり、運転免許の更新ができなかったことで眼科を受診されることが診断の契機になることがほとんどです。

治療は「目薬」か「手術」となります。目薬は進行を遅らせることはできますが、症状の改善を目指すなら手術となります。

眼の手術ってやっぱり怖いですね。でも白内障の手術は安全性が確立されているため、3mmの小さな傷口で10分もかからず、ほぼ痛みもなく手術が終わられます。「遠視・近視・乱視」の屈折異常もある程度治療できるので、手術を受けた患者さんはよく見えるようになるため大変喜ばれます。

「単焦点レンズ」を選ぶと、遠くにピントを合わせれば近くは見えづらいので老眼鏡が必要になり、近くにピントを合わせれば遠くは見えづらいので近視用眼鏡が必要になります。眼鏡をかけることに抵抗がなければくっきり見える単焦点レンズがおすすめです。

「多焦点レンズ」はピントが複数あり、遠くも近くも眼鏡がなくてもある程度見えるため老眼の治療ができる便利なものです。ただし、お金がかかる、夜の運転が少し見えづらい、鮮明度が単焦点レンズよりは劣るというデメリットはあります。しっかり説明を受けられ納得して手術を受けられることをお勧めします。

白内障を放置しておくとう認知症が進みやすい、転んで怪我をしやすくなると言われています。一度眼科で検査をされてはいかがでしょうか。